

視聴覚教育

No.100

発行日 59・2・1
発行 岡崎市AVL
編集 広報委員会

百号を記念して

岡崎市視聴覚ライブラリー

所長 横井 滋



岡崎市視聴覚ライブラリーも、今年の五月で三十周年を迎える。昭和二十九年、県下に先がけて「岡崎市小中学校視聴覚教育協会」が設置された。その後、昭和四十八年に社会教育フィルムライブラリーと合併し、「岡崎市視聴覚ライブラリー」となる。以来、学校教育はもとより、社会教育をも含めた本市視聴覚教育の中心拠点として大きな役割を果たしてきた。

視聴覚ライブラリーの機器も年々充実し、その活用もいっそう盛んになっている現状はまことに嬉しい限りである。16ミリ映画スライド、テレビ、ビデオ、L・L、アナライザーなど、授業で生かす視聴覚教材、機材は多種多様である。機材に振りまわされることなく、毎日の授業の中で、児童、生徒に生きて働く視聴覚教

材の活用を期待している。

ここに「月報視聴覚教育」第百号の発行にあたり、関係各位の御苦労に感謝すると共に、今後の発展を心より願っている。

長年を支えつる月報

岡崎市現職教育視聴覚部

部長 太田憲吾



月報もいよいよ百号を發行する運びになり、この仕事に関係する一人として喜びに堪えません。發行にお力ぞえをいただく先生並びに、發行を心待ちにし、実践に役立てていただく先生方に厚くお礼を申しあげます。

月報の内容は、岡崎の視聴覚教育の進展の歴史であり、特に、昭和四十九年一号發行からの成果は大きく、ライブラリー、各学校の機材の充実、視聴覚教育研究会を契機に、全国にその成果が認められる程になりました。

月報を読みかえす時、この道のためにご精進された方々がいかにも多くあったことか、ご苦労がいかにか大きかったかが、思いかえされます。あらためて敬意を表すると共に、進展のために格別なご高配をいただく市当局に心からお礼を申しあげます。

たゆみない歩み

山中小学校長 加藤義夫

月報の百号が発行されるに当たり、心から喜びを申し上げます。百号といえは十年の歩みです。岡崎の視聴覚教育は、本年で三十周年を迎え、その三分の一に当たる期間のすばらしい発展が、りがうかがえる記録でもあります。創刊号の頃は、また十六ミリフィルムが中心でした。月報の各号に見つけられる視聴覚教育の充実進歩が、今後またゆみない歩みとなることを願ってやみません。

雑感

矢作西小学校教頭 畔柳正夫

いろいろな教科の部報が手元に配布される中で、いろいろな教料の部報が手元に配布される中で、

本報については、特に身近な感じを持ちます。昭和四十二年度から六年間ライブラリーの仕事をさせていただき、広報活動には特に力を入れてきたつもりです。月報の内容も年を追うことに充実され、各母校の研究動向、AVに関する新しい情報、ライブラリーの活動など、きめ細かく紹介されており、すばらしい広報紙だと思っています。

月報 視聴覚教育

100号に想う

歴代ライブラリアン

感慨深い百号

愛教大附属岡崎中学校副校長 中村 巽

私が担当した当時は、ライブラリーの公立化に伴う転換期にあり、フィルムライブラリーからビデオ化の時代であったといえる。たとえば、自作教材の制作、月報「視聴覚教育」などもこの時期から始められたのであった。それがここに百号を迎えることになり、感慨も深い。関係のみなさんのご努力に敬意を払い、今後の発展を期待するものである。

AVLの貴重な足跡

視聴覚教育指導員 加藤憲尚

私が受け継いだ当時は、タイプ打ちで、更紙に印刷をしていた。現在のような孔版印刷にかえたのは昭和五十三年度(42号)からである。その年の主任会で、「暖かみのあるガリ版刷りにしたら、紙が悪い・上質紙にしたら、等の意見が出たのがきっかけである。二色刷りは46号から始めた。た、一枚の広報紙ではあるが、そこにはライブラリーの貴重な歴史が綴られている。広報委員の先生方の努力の賜物である。

昔をしのんで



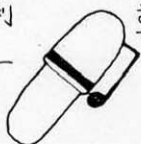
六ツ美南部小学校長 栢垣清春

百号記念の発行おめでとございませう。月報視聴覚教育発行に携わってこられた方々に、心から敬意を表します。

今から十八年前、美川中学校内にライブラリーがあった。その仕事をさせていただき、映写技術者講習会に参画した者として、今の視聴覚教育ならびに機器の充実は、まことに隔世の感を深くいたします。当時は、ラジオの生放送利用とか、フィルムの部分業にフィルムを活用してもらえることが先決だと話していたことを思い浮べます。先生がご存命なら、この百号の発行、今の視聴覚教育の隆盛を格別よろこんでいただけるものと思ひます。

「視聴覚教育」の創刊

城北中学校教頭 山田利一



月報も、その時の条件や要求によっていろいろ形を変えてきた。昭和二十九年五月視聴覚教育協会発定（小十二校・中六校）と同時に「視聴覚教育」が発刊された。これは孔版印刷による二十頁近い冊子である。編集は調査部（部長阿部俊房先生）が担当し

た。根石小宿直室が編集室となり、ブラザー孔版社へしばしば通い、かなり精力的な取材・編集をしたのである。内容は、教材フィルム、実践記録の紹介、積極的な利用と映写技術者の養成、映写機の一校一台設置等が主なものであった。一年十号を目標にしていたのであるが、その年は七号にとどまった。しかし、これが草創期の大きな武器となったことは確かである。

月報 視聴覚教育の

歩み



本月報の第一号は、昭和四十九年四月であるが、前身となる機関紙の発行は昭和二十九年五月から始まっている。

・第一期、昭和二十九年五月から、

三十年三月までに七号発行。

・第二期、三十年十二月から三十五年十一月までに十九号発行。

・第三期、三十六年四月から四十九年三月までに三十九号発行。

年三月までに三十九号発行。



